

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

理気剤 行気剤 6

はんげこうぼくとう  
半夏厚朴湯

行気解鬱・降逆化痰

半夏 9g・厚朴 9g・茯苓 12g・生姜 9g・紫蘇葉 6g  
水煎し服用する。

<主治>

痰気鬱結

咽に梗塞感があり嚥下しても喀出してもとれない、胸苦しい、咳嗽、喘鳴、悪心、嘔吐、腹満、舌苔が白膩、脈が弦滑などを呈す。

<病機>

肝気鬱結、肺胃宣降失調による梅核気である。

七情が不暢で肝気が鬱結して疏泄が失調し、気機が停滞して肺気、胃気が宣降できなくなり、津液の布散が傷害されて痰が形成し、痰と滞気が結びついて咽喉で結するため、咽に梗塞感があり嚥下しても喀出してもとれない「梅核気」が生じる。肺気が宣降できないので胸苦しい、咳嗽、喘鳴などが、胃気が和降しないので悪心、嘔吐、腹満がみられ、七情不暢によるゆううつ、抑うつなどを伴う。舌苔が白膩、脈が弦滑は、痰湿と気滞を示している。

<方意>

痰気鬱結、宣降失調であるから、行気開鬱、降逆化痰する必要がある。

化痰散結、降逆和胃の半夏が主薬で、行気解鬱、下気除満の厚朴が補助する。紫蘇葉は芳香行気、寛胸舒肝に、茯苓は滲湿に、生姜は和胃止嘔に働いて、半夏・厚朴を補佐する。全体で辛散苦降により化痰散結、行気降逆の効果が得られる。

<参考>

本方（半夏厚朴湯）は辛温苦燥の薬物からなるので痰気鬱結で無熱の場合にのみに適し、また燥性が強いので痰飲、痰湿の症候を呈するもの以外には用いてはならない。特に陰虚には禁忌である。

日本での保険適応効能、効果

気分がふさいで、咽喉、食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴うつぎの諸症；不安神経症、神経性胃炎、つわり、せき、しわがれ声、神経性食道狭窄症、不眠症